

薬連ハイライト

令和7年度定時評議員会が開催される

令和8年3月30日（月）午後1時より「令和7年度定時評議員会」がAP日本橋で開催された。

橋本常任総務の司会のもと、会議に先立ち、3月19日にご逝去された元衆議院議員で日本薬剤師連盟相談役の松本純先生を偲び、黙祷を捧げた。その後、岩月会長の挨拶に続いて、来賓として、とかしきなおみ衆議院議員、神谷まさゆき参議院議員、藤田洋司衆議院議員からご挨拶、本田あきこ参議院議員からはメッセージを頂戴した。

続いて、畑澤議長、久間副議長が登壇し、丹羽副会長より「最近の政治課題について」「次期都道府県評議員数について」など、大原副幹事長より「自民党青年局との意見交換会について」、川田幹事長より「第51回衆議院議員総選挙結果」など重要事項の経過報告が行われた。次に、報告並びに議案説明として丹羽副会長より「令和7年度会務並びに事業中間報告について」、川田幹事長より「第27回参議院議員通常選挙結果総括報告について」、丹羽副会長より「令和8年度事業計画の件」、荻野副会長より「令和8年度責任負担金賦課額、納付率に関する件、収入支出予算、借入金最高限

度額の件」、丹羽副会長より「会則改正の件」「会長選挙・監事選挙の件」について説明がなされ、質疑応答が行われた。

報告2件、議案6件が承認された後、会長及び監事の選出が行われ、会長に岩月進氏、監事に内藤貴夫氏、内野悟氏、村松章伊氏が選出された。

協議では大澤副会長より「会員増強について」説明後、質疑応答が行われ、原口副会長の閉会挨拶で散会した。



オレンジ日記

参議院厚生労働委員会による視察

参議院議員・薬剤師
本田 顕子



本格的な夏の到来を間近に控え、熱中症対策をはじめ体調管理を心掛ける季節となりました。

去る4月21日、参議院厚生労働委員会による視察として、大学病院および放射線治療の現状把握の調査のため、千葉大学医学部附属病院と国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構QSTが有する研究病院のQST病院を訪問しました。

千葉大学医学部附属病院では、国立大学附属の病院の使命として教育・研究・診療を一体的に推進し、期待される役割を果たすために職員一同が一丸となって取り組んでいる現状のほか、経営の安定化に向けた取組や大学政策への要望等を伺いました。その後、安全な医療を提供するためのシミュレーション技能教育を行うクリニカル・スキルズ・センターと正確にがん病巣に放射線照射するMRリアックを見学させていただきました。

QST病院では、量子科学技術に関する基礎研究等や官民によるがん治療や精神神経疾患診断に関する研究開発に加え、世界最先端かつ高品位な量子ビームの開発など、他に類を見ない取組を行っている中核的機関のお立場から、日本発の重粒子線治療を標準化することの重要性を伺いました。

所属委員を現地に派遣して調査する委員会活動の一環として行った今回の視察にて、両施設の皆様に貴重な時間を確保していただきましたことに感謝申し上げます。今後の厚生労働分野に関する政策の立案・提言に活かしてまいりたいと思っています。

政幸だより

令和8年度診療報酬改定

参議院議員・薬剤師
神谷 政幸



この度、令和8年度診療報酬が改定されました。調剤報酬の改定要点には「地域の医薬品供給拠点としての役割を發揮するための評価体系」「安心・安全で質の高い医療の推進のための薬局・薬剤師業務の対人業務における評価」の見直しが挙げられています。前者は『患者のための薬局ビジョン』（平成27年10月23日厚生労働省）で示された、医薬分業の基本的な考え方である「門前」から「かかりつけ」そして「地域」への拡充という目標に向け、それをさらに前進させるため、調剤基本料の見直しをはじめ、地域支援体制加算と後発医薬品調剤体制加算の評価の統合、在宅薬学総合体制加算の要件強化・評価の引上げなどが行われています。

また、後者については、かかりつけ薬剤師の包括的評価から実績重視の評価への転換や、薬局薬剤師による在宅患者訪問薬剤管理指導を促進するための評価が行われ、このほかには昨今の物価高騰および賃金上昇（ベースアップ）に対応するための評価が新設され、薬局従業員の処遇改善の実現が期待されています。

今回の調剤報酬改定は、地域住民そして患者さんのため、地域医療における医薬品供給体制拠点としての責務を担う薬局・薬剤師の皆さんの役割が極めて重要であることを示しているものと思っています。私も地域医薬品提供体制を担われる薬局・薬剤師の皆様と力を合わせ、より良い未来を築いていけるよう尽力してまいります。